

# 平成30年度 学校自己評価のまとめ

回収総数17名（職員 7名 こども環境科 5名 介護環境科 5名）

## 1 教育理念・目標

	4	3	2	1	平均	総平均
学校の理念・目的・育成人材像	6	1	0	0	3.9	3.8 (3.9)
	3	2	0	0	3.6	
	4	1	0	0	3.8	
職業教育の明確化	6	1	0	0	3.9	3.6 (3.8)
	3	2	0	0	3.6	
	2	3	0	0	3.4	
学校の将来構想	3	4	0	0	3.4	2.9 (3.1)
	0	1	4	0	2.2	
	0	4	1	0	2.8	
学生・保護者への周知	2	3	2	0	3.0	3.1 (3.1)
	1	3	1	0	3.0	
	1	4	0	0	3.2	
業界のニーズに向けての方向づけ	2	3	1	0	3.2	3.1 (3.3)
	1	3	0	0	3.3	
	1	3	1	0	3.0	

( )は29年度平均

○総平均値は0.1下がっている。  
項目別には4項目を除き全体的に下回った。

○保護者や学生へより丁寧(きめ細やか)な関わり方が必要である。

○将来構想についての共通認識が持てるよう今後努力していきたい。

## ・評価によって表出した課題(一部改善策)

◎保護者にお話出来る機会は入学式後と保護者懇談会のみ。これらの内容を充実させることやお便りなど工夫を図っていくことも必要なのでは。また学生に関してはオリエンテーション時にこの内容を充実させていくこと(現在はほとんど触れられないと思います)が必要です。  
合わせて学則(しくみ)だけで無く学ぶ事の意味、授業(欠席)に対する考え方などについてもしっかりと抑える時間としていくことが大切だと思います。

◎学科内で業界ニーズを把握していると思うが、個人によって認識に差があるように感じる。全体で育成人材像を再認識し、共通認識を持つことが必要だと思う。

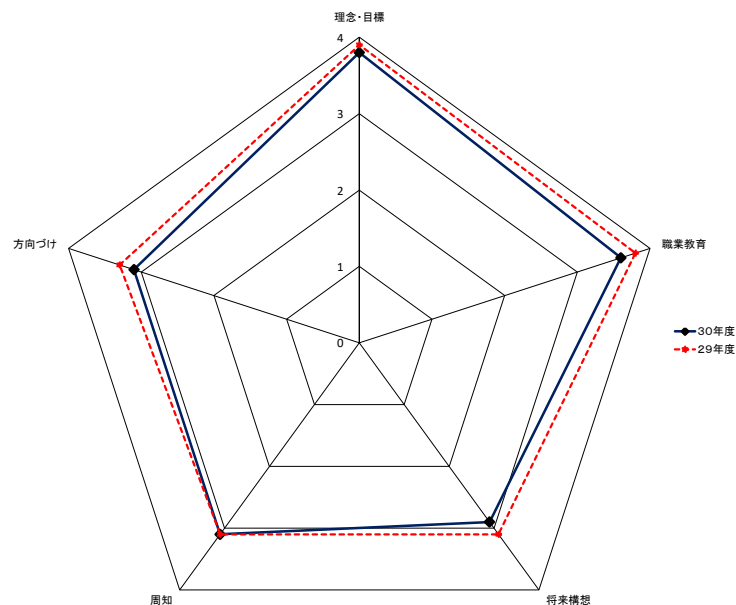
◎学校長を中心に全員が専門学校として小規模ながら努力していることに敬服する。

◎校名変更や外国人向け日本語学科のことなど、なんらかの将来構想はあるのかも知れないが、職員全体での共通認識じゃなくてもいいものなのか。

◎こども環境科としては、定員に近づける人数確保が課題。

◎少子化が進む中、保育者養成がいつまで掲げられるのか分からない。

◎将来構想や業界のニーズへ向けては方向付けられているが実際、学生又は周囲関係者への具体的な関わりにおいて、職員が個々の意見を出しながら意識を同じ方向性に向けること、目標を共有できることが課題と感じる。



2 学校運営

		4	3	2	1	平均	総平均
目的に沿った運営方針	調	4	3	0	0	3.6	3.5 (3.5)
	こ	2	2	1	0	3.2	
	介	4	1	0	0	3.8	
運営方針に沿った事業計画の策定	調	3	3	1	0	3.3	3.1 (3.4)
	こ	1	2	2	0	2.8	
	介	2	2	1	0	3.2	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	調	1	3	3	0	2.7	2.6 (3.1)
	こ	0	2	3	0	2.4	
	介	0	4	1	0	2.8	
人事・給与の規定の整備	調	2	4	1	0	3.1	2.9 (2.9)
	こ	0	1	4	0	2.2	
	介	1	4	0	0	3.2	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	調	2	4	1	0	3.1	2.9 (3.0)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	0	5	0	0	3.0	
業界・地域社会に対するコンプライアンス整備	調	2	5	0	0	3.3	3.1 (3.2)
	こ	0	5	0	0	3.0	
	介	0	5	0	0	3.0	
教育活動における情報公開	調	3	4	0	0	3.4	3.3 (3.4)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	1	3	1	0	3.0	
業務の効率化	調	2	4	1	0	3.1	2.9 (2.9)
	こ	1	1	3	0	2.6	
	介	0	4	1	0	2.8	

( )は29年度平均

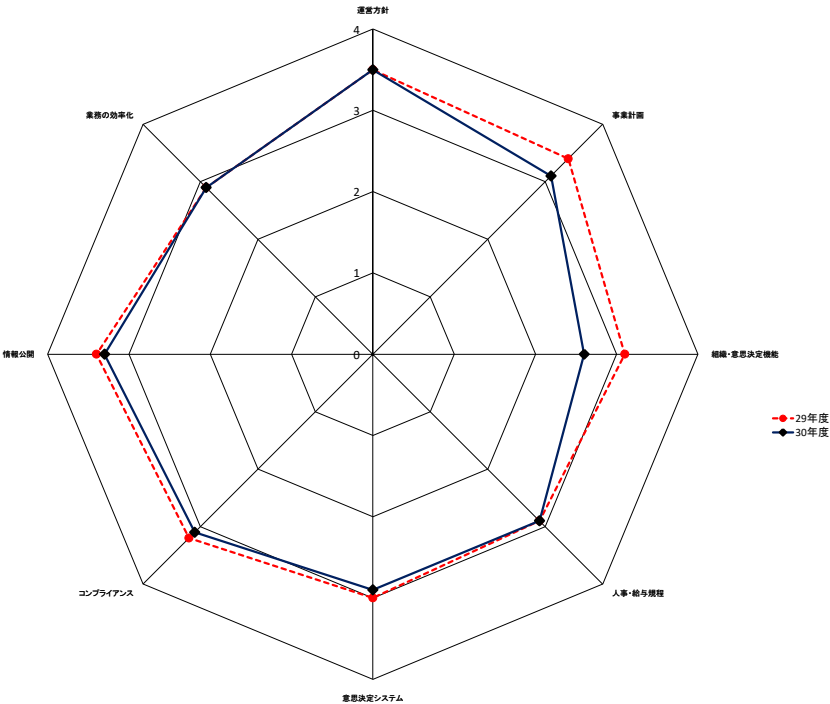
○総平均値は0.2ポイント下がっている。項目別では、3項目を除き全体的に下がっている。

○規則・規定について全職員が共通認識が持てるような体勢作りが必要である。

○個々の役割の明確化と効率的な業務の推進。

・評価によって表出した課題（一部改善策）

- ◎現在の職員（専任、フルタイムなど）体制を考えると、運営会議でのリーダーシップを強化することが、組織活性化（組織が機能していくこと）につながるのでは。
- ◎本年度の学校運営方針の中にある「重点目標」に基づいて事業計画がなされているか疑問に感じる。
- ◎意思決定機関が、どこにあるのか分からない場合がある。マニュアル化まで行かなくとも、誰にどこまでの権限があるのか、明確にして欲しい。
- ◎更なる外部との連携が必要とされる（釧根唯一の専門高等教育学校として）
- ◎時間割や出席管理や成績など、学校の通常と思われる業務に関するものも、まったく情報システム化されていない。
- ◎協議部分と報告部分はメリハリをつけて議論していくことも。
- ◎規則・規定がいつでも全職員が閲覧できるような整備の必要（複数回答）
- ◎教務について意志決定システムはできてきたと思うが、財務は出来ていないと思われる。予算を検討する場を設ける（トップだけで無く評議委員会、理事会でしっかり検討して頂きたい）
- ◎個々の役割を明確化し、効率化できる業務は、合理的に（必要・不必要を仕分ける、マニュアル化など）見直しを図り、有効に時間を活用できるように、方法を工夫していく必要があると考える。そこに時間を費やすことで、結果、効率的にゆとりをもって働ける方法が見いだせるのではないか。



3 教育活動

(1)教育課程

		4	3	2	1	平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針の策定	調	5	1	1	0	3.6	3.4
	介	1	4	0	0	3.2	
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	調	3	3	1	0	3.3	3.2
	介	1	4	0	0	3.2	
学科等のカリキュラムの体系的編成	調	2	4	1	0	3.1	3.3
	介	1	4	0	0	3.2	
キャリア教育・実践的職業教育の観点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	調	2	4	1	0	3.1	3.1
	介	0	5	0	0	3.0	
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	調	3	3	1	0	3.3	3.2
	介	1	3	1	0	3.0	
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	調	3	4	0	0	3.4	3.5
	介	2	3	0	0	3.4	

( )は29年度平均

○総平均値は0. 2ポイント下がっている。  
3項目が前回を下回っている。

○教育課程における非常勤も含めた全体の共通理解をどう図るか。

○保育・介護の新教育課程に対する共通理解と作業の推進を図る。

・評価によって表出した課題(一部改善策)

◎「絶対ではないが役に立つ」カリキュラムの見直しを希望。学校の運営状況(財務・業務量)を考慮し組み込む必要があると思う。

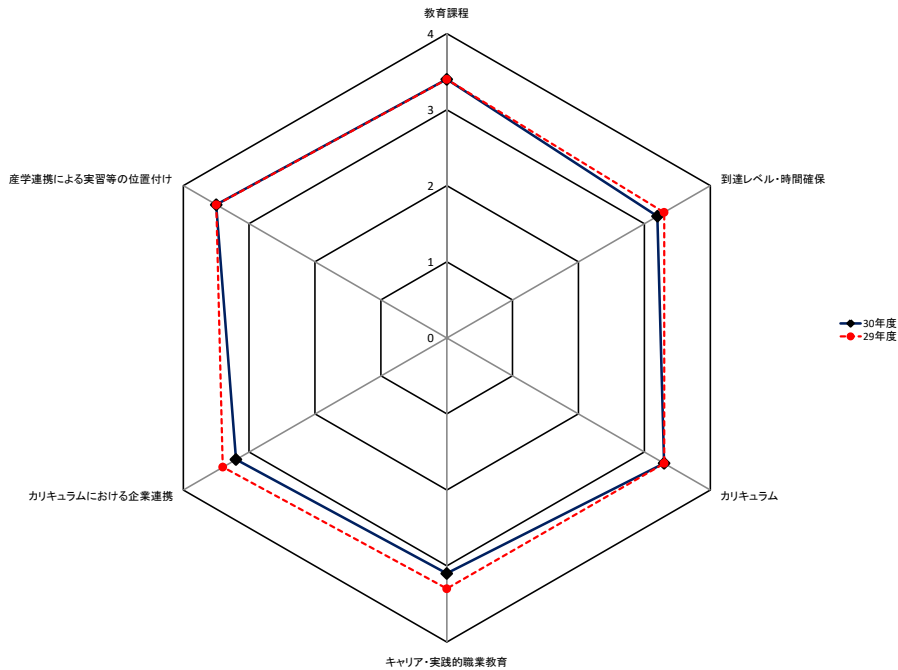
◎シラバスの内容等の浸透(教員、学生)

◎文科省や厚労省のしびりが強くなっており、独自性を発揮しづらくなっている。そのような中でも企業での保育体験を入れるなど一歩前進した。将来的には学校体験の独立科目とするなど工夫していけるとよい。

◎(全体での評価にはならないかと思いますが、介護の現状を見ての意見)新年度が始まる直前に非常勤講師等が決定するのではなく、もう少し早い段階で動きを予測し、早め早めの対応を検討してはどうか。そうしないと結果、時間と業務に追われ、場当たりの対応になっていると感じる。

◎学校として、学科としての方針をしっかりと教員間で練り上げることで、非常勤講師の方々とも協力し合える良い関係性が築かれ、学生にとっても有効な教育環境が整うではと考える。

◎非常勤講師を決める時期、次年度の行事予定(学科ごとの実習日程など)を決める期限など、学科共通のスケジュールを目安として定めたらどうか。



## (2) 指導・評価

		4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	調	4	2	1	0	3.4	3.5
	こ	2	3	0	0	3.4	
職業教育に対する外部関係者からの評価	調	3	2	0	0	3.6	(3.5)
	こ	4	3	0	0	3.6	
成績評価・単位認定・進級・卒業認定の基準の明確化	調	1	4	0	0	3.2	3.2
	こ	0	4	1	0	2.8	
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	調	3	2	2	0	3.1	3.1
	こ	1	3	1	0	3.0	
	調	2	2	1	0	3.2	(3.2)
	こ	3	3	1	0	3.3	
	調	1	4	0	0	3.2	3.2
	こ	1	3	1	0	3.0	

( )は29年度平均

○総平均値は昨年度とほぼ同じ値であるが、1項目を除き3項目は0.1ポイントずつ下回っている。

○指導体制の一致をどう図るか。

○授業改善に結びつく授業評価のあり方。

○成績評価・進級・卒業に関わる共通理解を深める時間の確保

## ・評価によって表出した課題(一部改善策)

◎形としてはとりあえずあるけれど、もっと丁寧な中味にしていけるべきである。

◎指導体制について、個人差がありすぎるように感じる。「気づき」の感覚の違いが原因なのか、指導できない理由があるなら改善すべき。

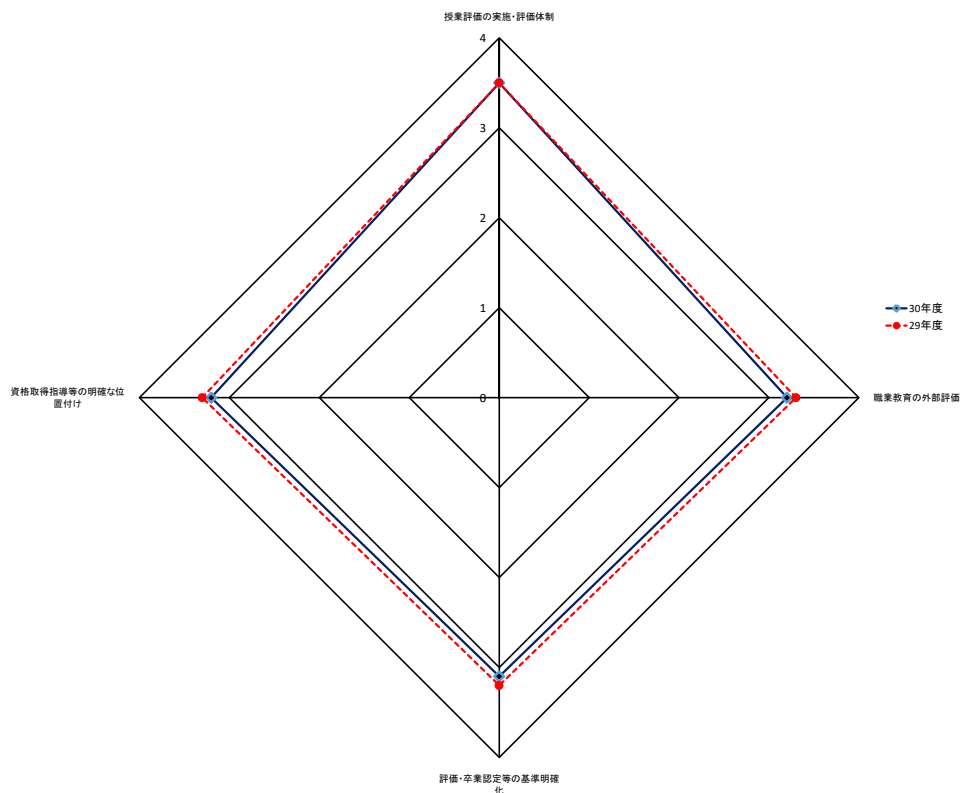
◎意欲の低い学生に対する評定についての評価基準の話し合い。

◎授業評価はしているが、効果が現れるようにするにはもう少し工夫が必要だと思う。(複数回答)

◎学則規定に合わせて学生用の学生のしおりに単位取得を明記するとともに学則を配布した。そのことで、単位認定の基準が明確になったが、演習科目においても講義科目と同等の欠席が見られるようになった。学生の指導の在り方の改善が必要。

◎成績評価や進級、卒業判定の基準については、これのみで1日話し合う場が必要では。

◎授業評価は自身の講義の改善に役立っている時間がある。



### (3)教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	調	1	6	0	0	3.1	3.4 (3.2)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	3	2	0	0	3.6	
関連分野の業界などとの連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	調	2	5	0	0	3.3	3.1 (3.5)
	こ	0	5	0	0	3.0	
	介	0	5	0	0	3.0	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	調	2	3	2	0	3.0	2.8 (3.3)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	0	4	1	0	2.8	
職員の能力開発のための研修	調	2	4	1	0	3.1	2.8 (2.9)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	0	3	2	0	2.6	

( )は29年度平均

○総平均値は昨年度に比べ0.4ポイント下がっており、1項目目のみ昨年を上回っている。

○特に2点台は全項目の中でも評価が低いと受け止め改善に努力していきたい。

○効果的だった外部講師による職員研修会の実施。

○学生個々の「生徒理解研修」の場の設定の必要性

○研修は教員にとって職責そのものであり、必要に応じて今後も研修の確保に支援していきたい。

### ・評価によって表出した課題(一部改善策)

◎先生方の研修意欲を形として応援できるような経済的援助が充実すると良いですね、

◎専門分野における資質向上のための研修なのか、参加者は明確にすべき。

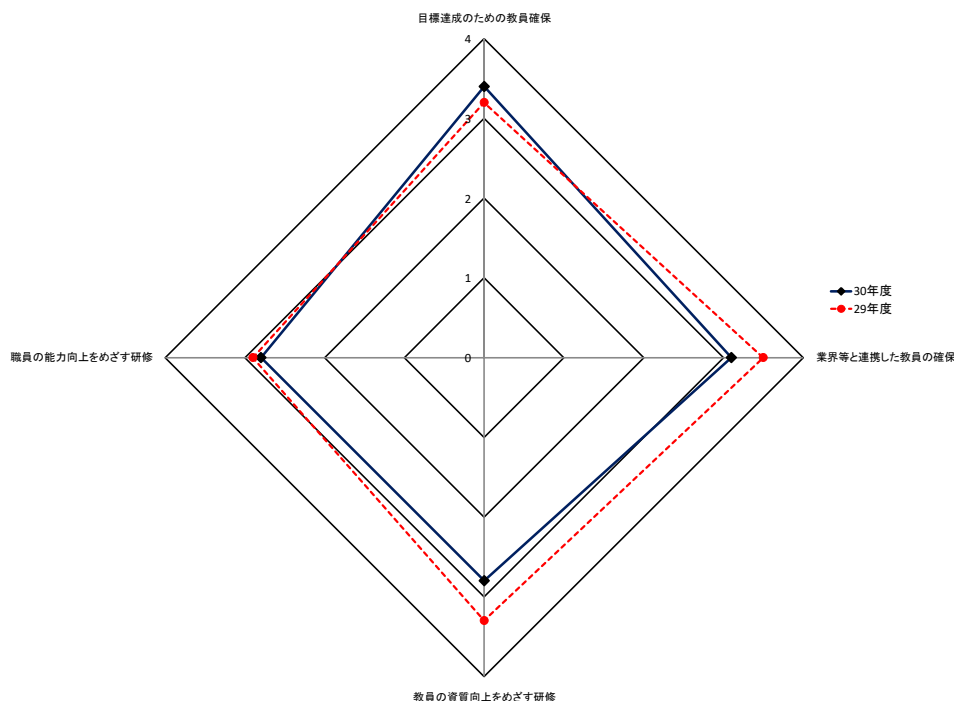
◎外部での研修会への参加特例と時間の確保

◎学生の支援サポートを充実するためにもフルタイム職員の補充をお願いしたい(複数回答)

◎個人差のある学生への対応を考えるため、外部講師を呼び研修するなど一歩前進した。引き続き教職員が学びたいと考えることに対応して研修できると良い。

◎教員の日々の研鑽の積み重ねが大事で、まずは実践報告の形から紀要に掲載するよう努力していきたい。

◎まずは職員会議時に、短時間でも時間を決めて、学生の事例の振り返りや情報共有する場を持つことから、研修に対する意識が広がればどうかと考える。



#### 4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	調	6	1	0	0	3.9	3.7 (3.5)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	4	1	0	0	3.8	
資格習得率の向上	調	4	1	1	0	3.5	3.4 (3.5)
	こ	3	2	0	0	3.6	
	介	1	4	0	0	3.2	
退学率の軽減	調	1	4	1	1	2.7	2.7 (3.1)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	1	2	2	0	2.8	
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	調	3	3	1	0	3.3	3.1 (3.4)
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	0	5	0	0	3.0	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	調	1	4	2	0	2.9	2.9 (3.0)
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	0	5	0	0	3.0	

( )は29年度平均

○総平均値は0.1下がっている。  
項目別では1項目を除き下回っている。

○退学していく学生の増加に対して初期段階からのきめ細やかな対応を図る体制づくり。

○卒業後のキャリア形成への効果をどう図っていくか。

#### ・評価によって表出した課題（一部改善策）

◎勉強が苦手などいろいろな学生がいるので、学生への関わりをもっと丁寧にしていかなければ、退学・欠席など多くの問題が生ずることになります。本校の場合、義務教育レベルの関わりが求められるのでは？

◎退学学生に対して、組織としてその対応策を考えるべきではないか。

◎退学者については、人間関係のつまづきもあるため、来年度以降宿泊研修等の実施を考えていきたい。

◎経済的な理由による退学は減らすことが出来た。

◎卒業後のキャリア形成への効果を把握する尺度が無い。リカレント講座を実施しているが…。

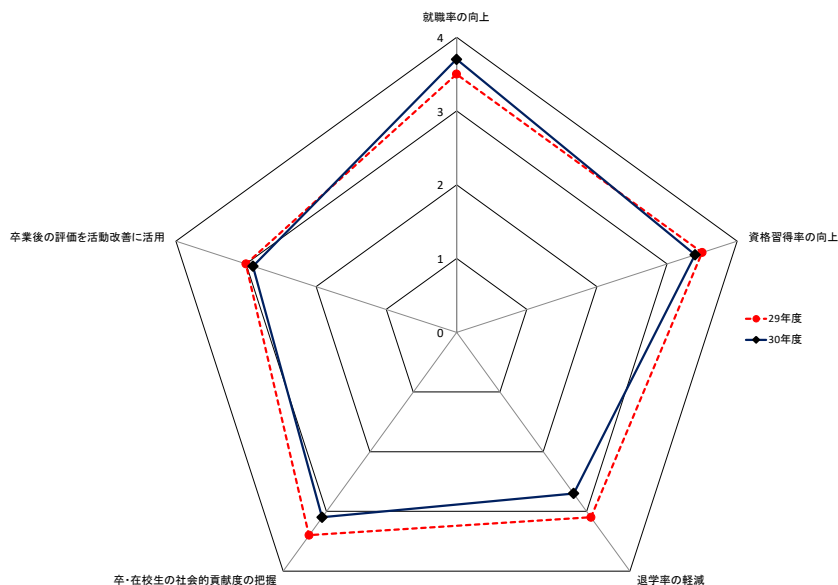
◎卒業後の追跡調査により得られることは大きいと思うので、取り組めたら良いと思います。

◎退学率に関して、動機が弱い入学生が多いのも事実だが、入学後にどんな対応が出来るのか、職員同士での話し合いは常に必要だと考える。

◎学生の学校への入口の苦勞（入学確保）と出口（就職）とのバランスが問題となる。

◎個々の先生方が努力されていますが、勤務体制も個々で異なり、人手が不足している現状で、現状に合った対応をマネジメントしていく必要があると感じます。

◎学生の退学についても、入学してからの個々の学生のリスクについて、入学前に、リスクマネジメントし、具体的な対応を検討しておく必要があるのではと考えます。それにより、TAなど個人への負担の軽減、学生を全体で周知することで、職員全体の目で見えていく連帯感も生まれるのではと考えます。



# 5 学生支援

## (1) 支援体制

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	調	1	6	0	0	3.1	3.2 (3.4)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	1	4	0	0	3.2	
学生相談に関する体制の整備	調	1	5	0	1	2.9	2.9 (3.3)
	こ	2	1	2	0	3.0	
	介	2	2	0	1	3.0	
学生に対する経済的支援体制の整備	調	1	5	0	0	3.2	3.1 (2.9)
	こ	1	4	0	0	3.2	
	介	0	5	0	0	3.0	
学生の健康管理を担う組織体制	調	1	4	1	0	3.0	2.9 (2.9)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	1	2	1	0	3.0	
課外活動に対する支援体制	調	2	4	0	0	3.3	3.1 (3.1)
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	1	3	1	0	3.0	
学生の生活環境への支援	調	1	4	1	0	3.0	2.9 (2.7)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	1	4	0	0	3.2	

( )は29年度平均

○総平均値は0.1ポイント上回っている。項目別では1、2項目が昨年より平均値が高い。

○多様なニーズ、悩みを持っている学生が気軽に生活・相談窓口などで相談できる対応の必要性。

○小規模校ならではのいろんな学生への声かけ、相談、支援の努力を惜しまない学校の雰囲気づくりの維持。

## ・評価によって表出した課題（一部改善策）

◎学生が相談に行く教員が偏っている。負担になっていると思うので、体制の見直しが必要。

◎学生への指導、ふれあいは学校に対する学生の満足度に現れる。どの学生にも声をかけ学生自身が存在感を自覚することから、小規模校の意義と評価が定まる。

◎相談は個別に対応していて、窓口があつたり相談担当がいるわけではない。

◎健康管理については看護師資格を持つ先生にお任せで、組織体制はない。

◎アルバイトに多くの時間を費やしている学生が多い。

◎フルタイムの教員が不足し、学生相談を十分に受けることが難しい。

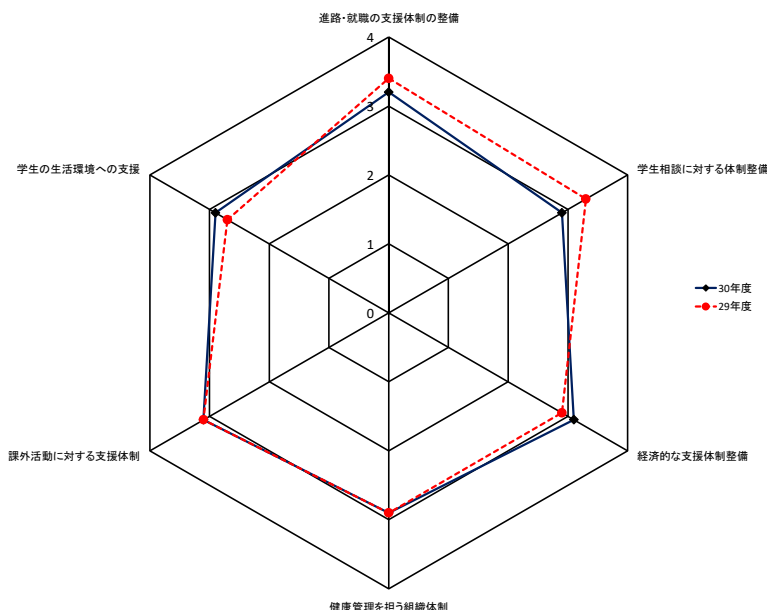
◎アルバイトにおけるシフトを断れないなどの問題が出ており、学生が学業を優先できるアルバイト先を学校としても開拓できると良い。

◎経済的支援では引き続き就職先となりうる企業とのタイアップにする修学資金をお願いする。

◎様々な特別なニーズを持った学生の受け入れを行っており、さらなる連携の強化や、必要な部署との連携を検討し、現状に合った取り組みを考えていく必要があると思われる。

◎学生支援の視点で、卒業後も学生が適切な支援を受けられるように、在校中(実習など)外部の連携先とつながる方法、話し合いを持つ場(理解を深める場)を前向きに検討し、具体的な形に作り上げていくこと。

◎校内で学科同士情報共有を行う場を持ち、風通しの良い職場環境を整えることが、退学者の軽減に結果つながるのではないかと考える。





## (2)連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	調	1	2	2	1	2.5	3.1 (3.3)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	2	3	0	0	3.4	
卒業生への支援体制	調	1	3	1	0	3.0	2.9 (2.9)
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	0	5	0	0	3.0	
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	調	1	5	0	0	3.2	3.1 (3.3)
	こ	1	4	0	0	3.2	
	介	0	5	0	0	3.0	
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	調	2	3	1	0	3.2	3.2 (3.5)
	こ	1	4	0	0	3.2	
	介	1	4	0	0	3.2	

( )は29年度平均

○総平均値は0.2ポイント下がっている。項目別では3項目が昨年より平均値が下がっている。

○保護者との連携を深めていくことの重要性

○小規模校ならではのいろんな学生への声かけ、相談、支援の努力を惜しまない学校の雰囲気づくりの維持。

### ・評価によって表出した課題(一部改善策)

◎特に欠席、遅刻日数が多い学生については、早い段階から保護者との連絡を取る必要を感じています。

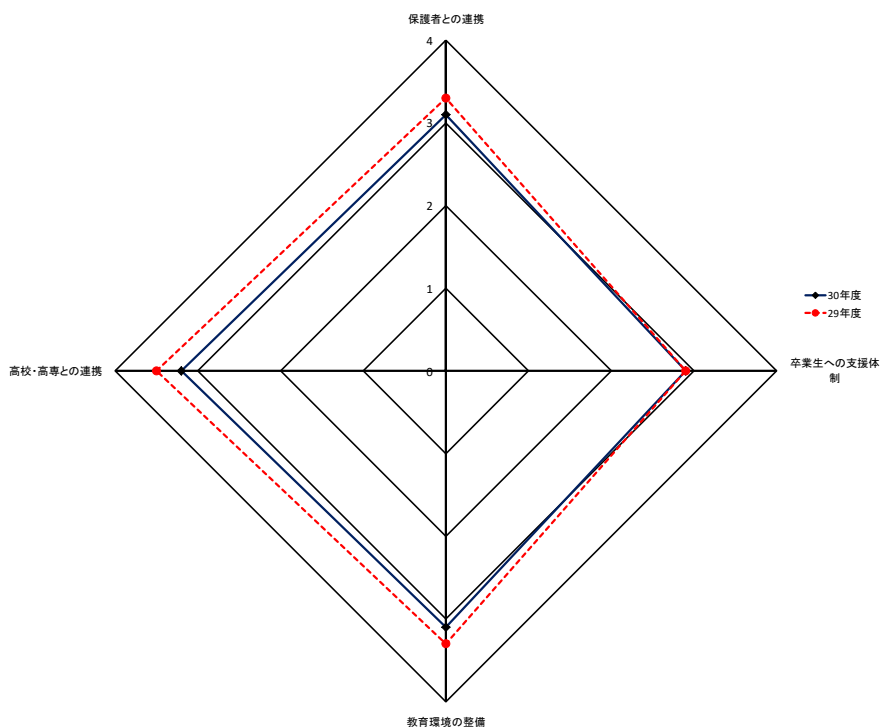
◎遅刻・欠席が多い学生の保護者との連携が、今のままで良いのか検討する必要があると思う。

◎皆さん頑張っているが、どこの私学も苦慮している中、更なる連携は不可欠。また連携した行事などのPRも必要。

◎学生のみならず、親の特性も反映している面もある。

◎卒業生の支援体制は、個々の先生の範囲にとどまっている感がある。組織的に何かあると良い。

◎現在、見直しされていることが具体化していくと良いと思います。





## 6 教育環境

		4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の 必要性に十分対応で きるよう整備できている。	調	1	4	2	0	2.9	2.5 (2.5)
	こ	0	0	5	0	2.0	
	介	0	3	2	0	2.6	
学内外の実習施設 は十分な教育体制 を整備している。	調	2	5	0	0	3.3	3.0 (3.1)
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	1	3	1	0	3.0	
インターシップ、 海外研修等につ いて体制の整備	調	1	3	2	0	2.8	2.8 (2.9)
	こ	0	2	3	0	2.4	
	介	1	3	1	0	3.0	
防災に対する体 制の整備	調	1	4	2	0	2.9	2.7 (2.7)
	こ	0	2	3	0	2.4	
	介	1	3	0	1	2.8	

( )は29年度平均

○総平均値は2.8でほぼ昨年並みである。  
項目別では2項目が昨年より0.1ポイント下がっている。

○他の大項目に比べ評価が2点台と低い。教育環境の中でも、特に施設・設備の老朽化に伴う、短期、中長期的な計画的改修、改善が必要である。

○災害時の階段使用不可時の避難については各階避難はしごが設置されているので、その使い方の訓練など計画していきたい。

○実習先とは両学科とも「実習等連絡協議会」を実施しており、その中で実習の受け入れ等についての密な連携が必要である。

### ・評価によって表出した課題（一部改善策）

◎老朽化した校内の施設・設備の修繕・整備が喫緊の課題だと思います。

◎暖房設備の改善を希望します。

◎古い施設設備をよく使い回していると思う。インターンシップ国内外での研修は特に必要。

◎各教室での情報機器の使用が可能な整備が必要です。

◎インターンシップ・海外研修について、実施や募集などの資料が閲覧できるように工夫して欲しい。

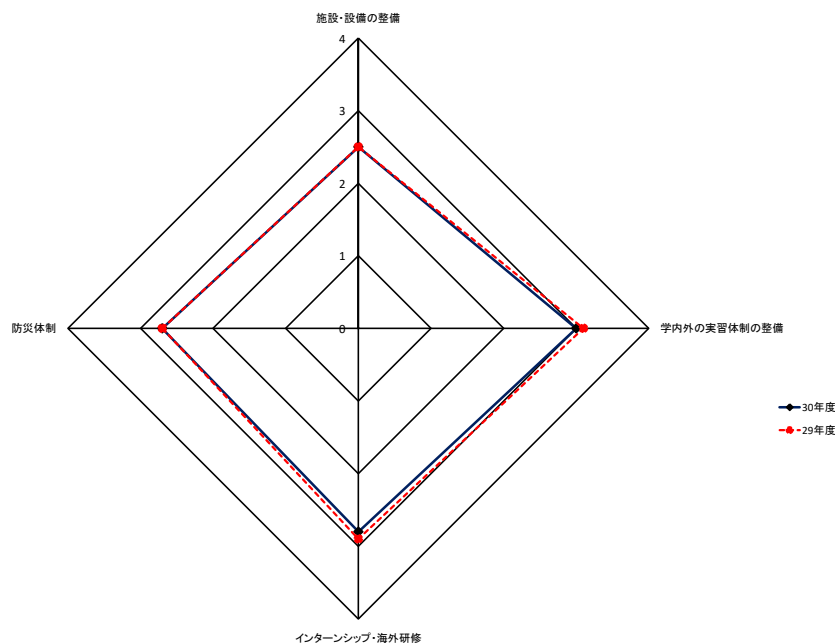
◎防災に関して、警報や放送を含めて全学的なシステムが必要に思われる。

◎学校外の実習施設で指導にあたる保育者の力量に差がある。保育者によって指導に差がある。少なくとも指導が矛盾しないよう、園長、施設長と確認したい。

◎階段使用不可時の避難をイメージしたい。

◎図書室については古い蔵書も多くまた、図書室の環境づくり、蔵書管理、図書予算を組むなど等が必要。

◎実習先は、個々それぞれの教育体制が整えられており、学校側として、現状(現在の学生の状況)を踏まえ、さらなる対応の改善が必要と考える。学校は、施設に学生を送り出す立場で、どのような支援体制を整えるか、その基準や施設側との学生の情報共有、またお互いに学生の理解を深め、支援方法・連携先を探っていくかなど具体的な協力関係を築く必要があると考える。



# 7 学生の受け入れ募集

		4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動が適正に行われている。	調	3	4	0	0	3.4	3.5 (3.5)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	3	2	0	0	3.6	
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	調	3	4	0	0	3.4	3.4 (3.4)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	1	4	0	0	3.2	
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	調	3	4	0	0	3.4	3.3 (3.1)
	こ	2	2	1	0	3.2	
	介	1	4	0	0	3.2	
学納金が妥当なものになっている。	調	3	4	0	0	3.4	3.4 (3.3)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	2	3	0	0	3.4	

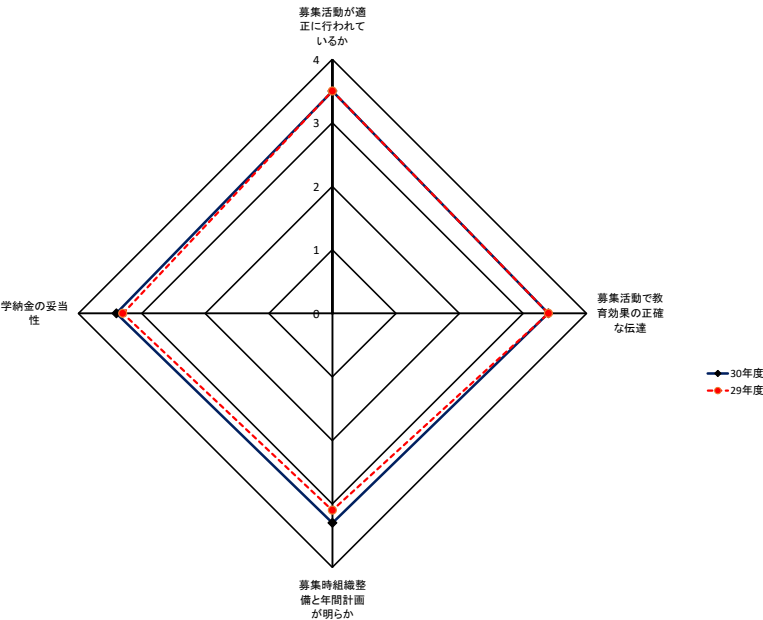
( )は29年度平均

○総平均値は0.1ポイント昨年より上回っており、項目別には2項目が昨年と同じ、2項目が昨年と同値である。

○他の大項目に比べ昨年より下回っている評価が無い。いろんな形で学生の受け入れを増やすべく全学上げて努力しているが、結果は決して伴っているとは言えない。  
今後更に創意工夫して学生の募集増を図っていきたい。

## ・評価によって表出した課題（一部改善策）

- ◎学校の姿勢（発展計画書に書かれていること）を発信することが無かったという反省があります。
- ◎募集活動は大変ではあろうが、何か掘り起こしの方策はないが、社会人も含めて考える必要もあろう。
- ◎高校訪問のスケジュール等、もっと早く出せると予定が組みやすい。
- ◎入学者が低迷している中、広報の在り方、内容等についても検討が必要。
- ◎現状を分析し、現実的に見合った方法を模索し試していく必要があると考える。
- ◎釧路専門学校の少人数でアットホームな中で教員と学生、一人一人と向き合える良さを見直して、学校の基盤を整えることで、入学者の確保にもつながるのではと考えます。



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	調	0	4	1	0	2.8	2.7 (2.8)
	こ	0	2	3	0	2.4	
	介	0	4	1	0	2.8	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	調	1	3	1	0	3.0	2.7 (2.8)
	こ	0	2	3	0	2.4	
	介	0	4	1	0	2.8	
財政について会計監査が適正に行われている。	調	2	3	0	0	3.4	3.3 (3.1)
	こ	1	4	0	0	3.2	
	介	1	4	0	0	3.2	
財務情報公開の整備はできている。	調	3	2	0	0	3.6	3.2 (3.3)
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	1	4	0	0	3.2	

( )は29年度平均

○総平均値は昨年とほぼ同じであるが、項目別には3項目が昨年より0.1ポイント下回っている。3項目目が0.2ポイント昨年より上回っている。

○学生増が財政的な安定基盤であることは明らかなので、今後全学上げて努力していきたい。

・評価によって表出した課題(一部改善策)

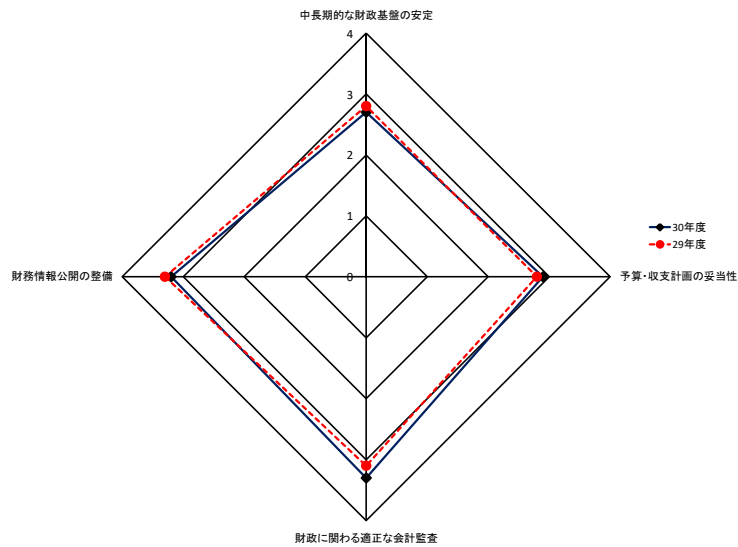
◎中長期に安定しているのか不透明なので、運営者からの説明を希望。

◎財務については、この状況下で苦勞していると思われるが… 多少の制約があっても、補助金への関心を深めてもいいのではと思う。

◎定員の問題が、財政的な基盤で大きい課題であるとする。

◎中長期的な学校の計画が見えない。職員が理解を深めるためにも職員会議で説明があると良い。

◎慣例化した予算の流れを目的に沿って見直しが必要ではないかと考える。



# 9 法令の遵守

		4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	調	5	2	0	0	3.7	3.6 (3.6)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	3	2	0	0	3.6	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	調	6	0	1	0	3.7	3.5 (3.5)
	こ	2	2	1	0	3.2	
	介	2	3	0	0	3.4	
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	調	5	2	0	0	3.7	3.3 (3.3)
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	1	4	0	0	3.2	
自己評価結果の公開	調	6	1	0	0	3.9	3.7 (3.5)
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	4	1	0	0	3.8	

( )は29年度平均

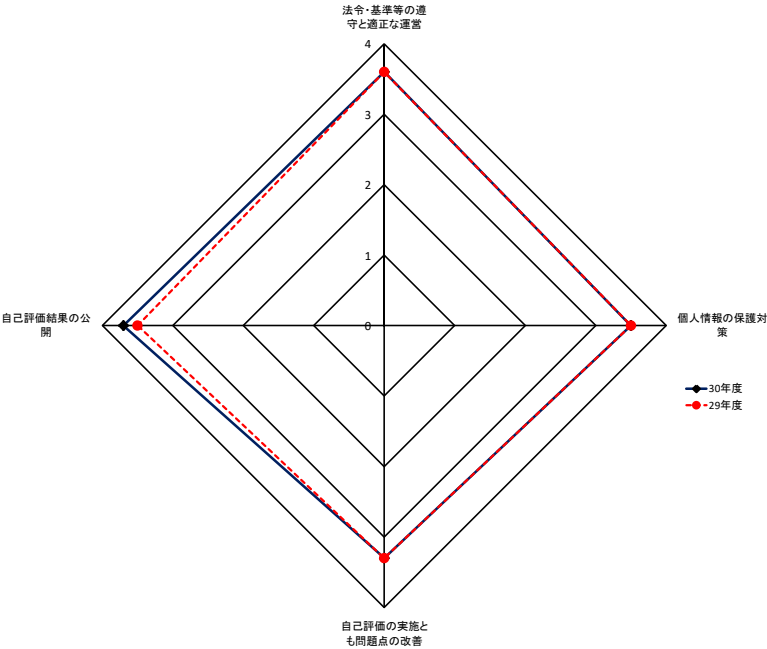
○総平均値は昨年とほぼ同じであるが、項目別には3項目が昨年と同値で、1項目が0.2ポイント昨年より上回っている。

○法令については学校としてしっかり遵守している。

○個人情報の保護と自己評価における改善についての情報開示について今後も努力していきたい。

## ・評価によって表出した課題（一部改善策）

- ◎個人情報保護に対する基本的な考えを学校として示し、共通理解を図る必要がある。(複数回答)
- ◎対社会、对学生の評価を常に念頭にそれぞれが努力することが肝要。
- ◎自己評価で問題点が出ているものの改善の順番が分からず、いつ改善されるのかと思う。すぐに改善できない問題点もあるが、どこから改善するのか、しようとしているのか情報が欲しい。



# 10 社会貢献・地域貢献

	4	3	2	1	平均	総平均
学校のエ育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	6	0	0	0	4.0	3.8
学生ボランティア活動を奨励、支援している。	3	2	0	0	3.6	3.7
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	3	3	0	0	3.5	3.6
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	4	1	0	0	3.8	3.6
	2	2	0	0	3.5	(3.6)
	3	3	0	0	3.5	
	6	1	0	0	3.9	
	3	2	0	0	3.6	
	2	3	0	0	3.4	(3.7)

( )は29年度平均

○総平均値は昨年とほぼ同じであるが、項目別には2項目が昨年と同値で、2項目が0.1ポイント昨年より下回っている。

○総平均値は3.7と他の大項目に比べ3.5以上の平均値を毎年保っており、社会貢献・地域貢献については学校として努力していると自負できる。

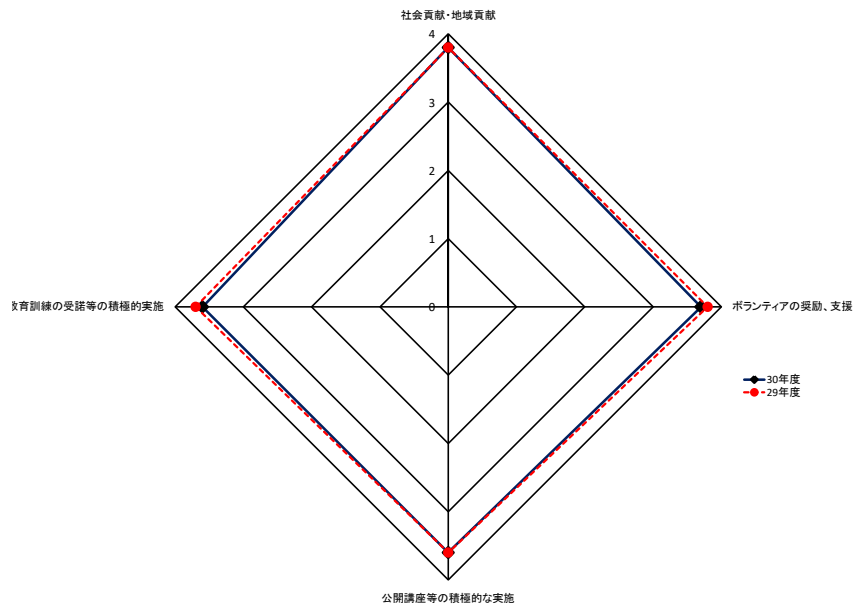
○特にスクールバスを使つての自然再発見シリーズの散策会、ボランティア活動、各種講演会等々毎年充実した活動が行われており、今後も継続努力していきたいと考える。

## ・評価によって表出した課題（一部改善策）

◎小規模校としても十分機能していると思われる。

◎教育訓練、附帯事業での訓練において、当初計画していた人数を下回る場合でも訓練することになり、教員への負担が減らない。開講人数の最低人数は崩さないで欲しい。

◎活動はされているが、地域に開かれた印象はなかなか感じづらく、より身近な地域に視点を置いて、地域に密着した学校の活動を工夫していくことで、学校の評価も広がるのではないかと感じる。例えば、出前授業を近郊の小学校で行う、小学校のボランティア（絵本の読み聞かせ、羊の世話など）への参加。学生の良い経験にもなり、新聞などでも取り上げられるのではないかな。



・その他の課題(全体的に)

◎学祭に対し、実施を予定していたアンケートの実施。学生の生の声を聴いて、学校改善に生かしてはどうか。また、私自身の相談窓口、解決の糸口が見えず、悩む事があります。(もうすでに、学祭については職員会議で検討済みかも知れませんが、休みで確認できておらず申し訳ありません)

学祭の日程を毎年実施するのであれば、何月の何週目などと決まっていると、それに付随して年間行事予定が決まりやすいのではと感じます。その他、毎年日程が固定できるものは固定しては。

◎学祭の現状に合わせた内容への変更、縮小化の検討。

◎学生の意見・苦情?の受取窓口、職員の相談窓口の設置。(学生の生の声を聴いて、学校改善に生かしてはどうか。また私自身の相談窓口、解決の糸口が見えず悩む事があります。

※自己評価結果について

○今年度で4回目の学校自己評価を実施し、その結果を集計し公表をしております。過去3回の自己評価に比べ今回は評価も辛くなり、先生方から今までに無い多くの貴重な意見もいただきました。この学校自己評価に対して、先生方も真剣に向き合い、評価だけで無く、改善についての意見も出してくれるという本来の学校評価が実施されてきたのかなと感じております。  
今後、表出した評価、意見について真摯に向き合い、その改善策や方策について考えていきたいと思います。